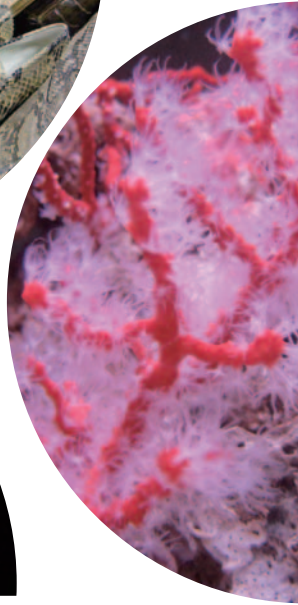


私たちの暮らしを支える
世界の生物多様性

日本の野生生物取引のいま

石原明子、金成かほる、齊藤つくみ、高橋そよ

トラフィック イーストアジア ジャパン



発行：トラフィックイーストアジアジャパン、東京

©2010トラフィックイーストアジアジャパン

このレポートの著作権はすべてトラフィックイーストアジアジャパンに属します。

本報告書の無断転載はお断り致します。

転載ご希望の際はトラフィックイーストアジアジャパンにご一報ください。

本報告書の著者の意見は、必ずしもトラフィックネットワーク
WWF または IUCN の意見を反映しているとは限りません。

このレポートの中での地理的名称、および資料の表記は
いかなる国、領土、地域、当局の法律の現状、もしくは境界
国境の設定に関するトラフィックまたは
その支援機関の意見を反映するものではありません。

トラフィックのシンボルの著作権、登録商標の所有権は WWF に属します。
トラフィックは WWF と IUCN の共同プログラムです。

引用例：石原明子、金成かほる、齊藤つぐみ、高橋そよ（2010）、
私たちの暮らしを支える世界の生物多様性：
日本の野生生物取引のいま、トラフィックイーストアジアジャパン、東京

ISBN：978-4-915613-21-0

表紙：上から下、左から右

©Martin Harvey / WWF-Canon

©TRAFFIC

© 岩崎望

© 荻慎一郎（愛媛県立図書館所蔵）

©Hartmut Jungius / WWF-Canon

©T. Saito / TRAFFIC

©J. Compton / TRAFFIC

©TRAFFIC

©Martin Harvey / WWF-Canon

©K. Kanari / TRAFFIC

©TRAFFIC

©Frédéric BASSEMAYOUSSE / WWF Mediterranean

編集：齊藤つぐみ

アートディレクション&デザイン：安田健一
藤巻武士
長田敏希
小林耕輔

本誌に利用されているのは、FSC 認証紙です。

**私たちの暮らしを支える
世界の生物多様性**

日本の野生生物取引のいま

石原明子、金成かほる、齊藤つぐみ、高橋そよ

トラフィック イーストアジア ジャパン

2010年10月

謝辞

この報告書は、WWFジャパンの資金提供により作成されました。

本報告書はさまざまな方のご協力により完成しました。当研究へのご理解とご協力に感謝します。

筆者はまず嶋田康男氏（三星製薬株式会社）、浅間宏志氏（日本漢方生薬製剤協会）、マーク・アウリヤ氏、兵庫大学教授 太田英利氏、清野比咲子氏（WWFジャパン）、東京女子大教授 石井信夫氏、マーク・アウリア（共同研究者）のその貴重なご意見とアドバイスに感謝します。また、情報提供およびアドバイスをいただいたエリザベス・ホワイト氏（UNEP World Conservation Monitoring Centre）および、象牙取引の調査の実施するにあたってご協力いただいた鈴木愛氏、中村美貴氏、また全面的にサポートしていただいた西野亮子氏に感謝します。

また筆者は特に、内容を確認してくれたクリス・シェファード（トラフィックサウスイーストアジア）、ジョイス・ウー（トラフィックイーストアジア台北）、ステファニー・フォン・メイボン（トラフィックヨーロッパ）、トム・ミリケン（トラフィックイースト/サザンアフリカ）、シュエイエン・リウ（トラフィック中国プログラム）、アナスタシヤ・ティモシナ（トラフィックヨーロッパ-中西部プロジェクトオフィス）、トラフィックインターナショナルのチェン・ヒン・ケオン、グレン・サント、ジェームス・コンプトン、リチャード・トーマス、サブリー・ゼイン、ジュリー・グレイに感謝します。

はじめに

ジェームス・コンプトン(アジアのシニア・ディレクター)
石原明子(トラフィックイーストアジアジャパン代表)

古来、日本人が野生の動植物から作られたもの
にいかにか魅せられてきたかは、奈良の正倉院宝庫
の所蔵品から、うかがい知ることができる。正倉院
には、象牙、鼈甲(べっ甲)、犀角(さいかく)、銘木、
朝鮮人参や木香(モッコウ)などの薬草、そして蘭
奢待(らんじゃたい)という特別な雅名まで付いた
最高級の沈香など、比類のない見事な「宝物」が
収蔵されているのである。

これらの貴重な文化財は、日本の豊かな文化遺
産のひとつとして知られてきた。一方、それらはアジア、
アフリカ、太平洋地域のさまざまな原産国と日本の間
に、交易を介した結びつきがあったことも表している。
同様の交易ルートの多くは21世紀にも残っており、
現代日本は経済の原動力である燃料や食料・医薬
品の確保、贅沢品の供給を目的として、そのルート
による自然資源の輸入に強く依存している。

日本の消費パターンは、生物多様性の高い地域、
すなわち陸・海・淡水生態系の、幅広い絶滅のお
それのある動植物の種を包含する「優先地域」の
保全と直接結びついている。例えば、象牙、木材、
アワビはアフリカから、薬草、爬虫類、沈香はアジ
アから、マグロ、サメ、サンゴは太平洋、大西洋、
インド洋から、木材は南北両米から、サケはロシア
極東部から輸入されている。日本の野生動植物の
取引が、世界的なエコロジカル・フットプリントの一
部を構成していることは明らかである。

昔と比べて著しく変化したのは供給量の拡大であ
る。これら野生動植物の多くの個体群では深刻な衰
退が起きている。その原因は、かつて自然界の「宝
物」であったものが商品として考えられるようになった
ことにある。すなわち、かつては自給自足のために
利用し、余剰分のみを取引に供していたものが、商
業レベルで消費されるようになったのである。ここ数
十年に起きたもうひとつの大きな変化は、日本経済が
中国経済と密接に結びついた結果、中国経済の急
成長につれ、「世界の工場」と呼ばれる隣国が原
産国となった製品を消費する国という性格を日本が

強めてきたことである。

「私たちの暮らしを支える世界の生物多様性：日
本の野生生物取引のいま」では、現在の需給パター
ンの分析と洞察を提示し、日本における野生生物取
引を通じた消費を推し進めている贅沢・伝統・必要
性という要素が相まった現状を明らかにしている。日
本のような先進経済では、取引を行う企業だけでなく
消費者自身も倫理的な選択を行うことができる。21世
紀に入って以来、日本社会は長年の過剰消費社会
から「グリーン(環境への配慮)」指向へと、考え
方を変えつつある。多くの意味で、これは日本にとり
実は目新しい試みではなく、むしろ最終的には、何
ひとつ無駄にせず、リサイクルが社会契約の一部と
して組み込まれていた江戸時代の倫理観に立ち戻る
ことを意味するとも言えるのである。

本書は日本が生物多様性条約第10回締約国会
議の主催国を務める機会に寄せて、日本の取引パ
ターンに関する理解を深めることをねらいとして刊行し
た。政府の政策決定者は、民間企業と市民社会の
積極的な参加を得て、日本の野生生物取引経済を
責任ある消費へと移行させるために中心的な役割を
果たさねばならないが、本書はまずそれら政策決定
者に情報を提供したい。世界的な活動の中で日本
が主導的役割を果たすことにより、市場の動きを良い
方向に転換させ、環境の管理責任(スチュワードシ
ップ)の新たな世界基準を設けることができるのである。
また、野生動植物、それらの製品と派生物に代わる
合法的かつ持続可能な代替品に重点を置くことによ
り、日本が生態系における悪い影響を軽減することも
可能である。多くの供給国は、昔から自然資源を供
給していた国である。日本はその輸出国と密接に協
力し、野生動植物の持続可能な管理の強化に貢献
できるのである。

このレポートでは、日本銀行による次のような円と米ドルの為替レートを使った。

1999年	1米ドル=119.67円	2008年	1米ドル=89.20円
2005年	1米ドル=100.00円	2009年	1米ドル=100.32円
2007年	1米ドル=82.84円		

TABLE OF CONTENTS

輸

06

日本のワシントン条約掲載種の輸入状況

コラム：世界のワシントン条約対象種の輸入と日本

爬

14

爬虫類のペット取引

林

18

日本の木材取引

コラム：統計と税関の役割

薬

24

日本の薬用植物取引

コラム：世界の植物保全への取組みとフェアワイルド基準

コラム：長江上流域の薬用植物生産地域

宝

30

日本における宝石サンゴの国際取引と資源管理

鮫

36

大西洋クロマグロとワシントン条約

コラム：サメの保全と日本の役割

卵

42

チョウザメ目の保全と日本の役割

牙

48

東アジアが握るアフリカゾウの将来

取

52

バーチャルで取引されるリアルな野生動植物

輸

爬

林

薬

宝

鮫

卵

牙

取